

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立第四小学校

4年	【目指す授業】	・話をしっかりと聞かせ、内容を理解できるようにする授業 ・友達の良い点を見付け、自分に生かせるようにする授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○話を聞きもらしてしまい、何度も同じことを聞きに来ることがある。 ○自分の言葉で説明することに課題がある。		○授業の中でメモを取る時間を意図的に設定する。(スピーチやビデオ、社会科見学等) ○書いた文章を友達と読み合う場を設定し、何を書けばよいのかが分かるようにする。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている。		74.5%	85%	%
	他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書くようにしている。		74.5%	85%	%
	【評価】	成果と課題			
	○ ○				

5年	【目指す授業】	文章の内容が理解できるとともに、他の人に自分の考えを伝えることができる授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○文章の読解や問いに答えることに課題がある。 ○自分の考えや思いを分かりやすく伝えることに課題がある。		○文章の内容理解ができるように、範読を繰り返し行い、文脈にある大事なところを見付けることができるようにする。 ○ペアなどの少人数で自分の考えを伝える機会を設定する。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	文章を理解できるように、大切だと思った部分や疑問に思った部分に線を引きながら読んでいる。		60.7%	70%	%
	発表や話し合いのときは、話す内容や順序を考えてから話している。		73.3%	75%	%
	【評価】	成果と課題			
	○ ○				

6年	【目指す授業】	・自分の考えを分かりやすい表現で書けるようにする授業 ・自分の考えや思いを他の人に伝え合うことができる授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○自分の考えや思いを分かりやすい表現で書くことに課題がある。 ○書く順序、書く筋道を考えることに課題がある。 ○自分の言葉で説明することに課題がある。		○文例等を提示し、理由を挙げながら文章を書くよう指導する。 ○意見文や感想文を書く活動を各単元で設定し、作文力の向上を図る。 ○メモを基に書いた文章を伝え合う機会を設定する。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	自分が書いた文章を読み返し、分かりやすい表現になるように書き直している。		65%	75%	%
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		50%	65%	%
	【評価】	成果と課題			
	○ ○				

令和5年度授業改善推進プラン【算数】

学校名 武蔵村山市立第四小学校

4年	【目指す授業】	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能の定着を目指す授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○問題文の内容を図や表、グラフに表すことに課題がある。 ○学習内容を理解・定着しきれていない場合もそのままにしてしまう児童がいる。		○週に1回朝学習で文章問題に取り組み、図や表、グラフをかく時間を設定する。 ○テスト前に、タブレット PC やプリントなどを使って適用問題に繰り返し取り組ませる。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		70.6%	80%	%
	テストやドリルでまちがえたところは、似た問題を選んで、特に練習している。		72.5%	80%	%
	【評価】	成果と課題			
		○ ○			

5年	【目指す授業】	四則計算等の既習内容を活用し、答えを導き出そうとする授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○四則計算が身に付いていない児童がいる。 ○基礎・基本の定着に2極化が見られ、差が大きい。 ○文章題からの立式が苦手な児童がいる。		○毎時間の導入でタブレット PC を活用し、既習の四則計算の時間を設定する。 ○文章題の単位から、立式の仕方を考えたり内容を図や表に表したりして考えを説明する場面を設定する。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	前に同じような問題をやったことがあるかや、今まで学習した問題とどこがちがうかを考えている。		76.8%	80%	%
	分かっていることと求めることを考えて問題に取り組んでいる。		69.6%	75%	%
	【評価】	成果と課題			
		○ ○			

6年	【目指す授業】	計算方法や図形の公式を理解し、自分の考えを説明し合う授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○自分の考えを文章や図で説明をし、他の人に伝えることに課題がある。 ○応用・発展の問題を解くことに課題がある。		○自分の考えをペア等で伝え合う際に説明の仕方を示す。また、複数人に説明させることで、説明する機会を意図的に増やす。 ○授業の後半に基礎・基本の問題だけではなく、タブレット PC やプリントを活用し、応用・発展問題にも繰り返し取り組ませる。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	算数で学習した言葉を使って自分の考え方を説明している。		65%	75%	%
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		50%	65%	%
	【評価】	成果と課題			
		○ ○			

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立第二中学校

1年	【目指す授業】	基礎学力の定着と活用する力を付けられる授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○小学校学習漢字が身に付いていない生徒が多数おり、漢字の読み書きに課題がある。 ○話を聞くときにメモをとる習慣が身に付いておらず、正確な聞き取りに課題がある。		○小学校1年の学習漢字から、遡って指導を毎時間行うとともにタブレットPCを使って漢字練習を行う。 ○聞き取り練習を計画的に行うとともに、授業記録のメモ状態を单元ごとに確認し、随時指導を行う。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	5(4) テストやドリルでまちがえたときは、まちがえた漢字を選んで、特に練習している。		68.6%	80%	%
	6(2) 他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている。		45.7%	55%	%
	【評価】	成果と課題			
	○ ○				

2年	【目指す授業】	基礎学力の定着と活用する力を付けられる授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○中学校学習漢字が身に付いていない生徒が多く、漢字の読み書きに課題がある。 ○話を聞くときにメモをとる習慣が身に付いておらず、集中力の維持や正確な聞き取りに課題がある。		○中学校2年学習漢字を中心に、タブレットPCも使って中学校学習漢字の指導・練習を毎時間行う。 ○聞き取り練習を計画的に行うとともに、授業記録のメモ状態を单元ごとに確認し、随時指導を行う。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	5(4) テストやドリルでまちがえたときは、まちがえた漢字を選んで、特に練習している。		61.8%	70%	%
	6(2)他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている。		76.3%	85%	%
	【評価】	成果と課題			
	○ ○				

3年	【目指す授業】	基礎学力の向上と活用する力を付けられる授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○入試頻出漢字が身に付いていない生徒が多数おり、漢字の読み書き・語彙数に課題がある。 ○話を聞くときにメモをとる習慣が身に付いておらず、正確な聞き取り・注意力の向上に課題がある。		○入試頻出漢字を中心に、タブレットPCも用いて、最大限可能な漢字の指導・練習を毎時間行う。 ○聞き取り練習を計画的に行うとともに、授業記録のメモ状態を单元ごとに確認し、随時指導を行う。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	5(4) テストやドリルでまちがえたときは、まちがえた漢字を選んで、特に練習している。		54.5%	60%	%
	6(2) 他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている。		50%	60%	%
	【評価】	成果と課題			
	○ ○				

令和5年度授業改善推進プラン【数学】

学校名 武蔵村山市立第二中学校

1年	【目指す授業】	基礎的・基本的な学力の向上と問題解決のための情報整理			
		生徒の実態・課題	具体的な手だて		
		○基本的な知識・技能の定着が不十分な生徒が多数いる。 ○問題文から情報を整理して立式することができず、解くことができない生徒が多数いる。	○反復演習や授業ごとに小テストを行い、計算技能を身に付ける。 ○タブレット PC を活用して、問題演習や振り返り等を行い、学習内容の定着を図る。 ○問題から得られる情報を、図や表で表して他者に説明する活動を行い、文章になる情報を整理したり、数量関係を把握したりする力を高める。		
		評価指標	6月	目標値	2月
		問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。	48.5%	60%	%
		数学で学習した言葉を使って自分の考えを説明している。	57.5%	70%	%
		【評価】	成果と課題		
		○			

2年	【目指す授業】	基礎的・基本的学力の定着と言語活動の充実			
		生徒の実態・課題	具体的な手だて		
		○基礎的な知識・技能の定着が不十分な生徒が多数いる。 ○説明の際、自分の考えを言葉で表すのが苦手な生徒が多い。	○反復演習や授業ごとに小テストを行い、計算技能を身に付ける。 ○タブレット PC を活用して、問題演習や振り返り等を行い、学習内容の定着を図る。 ○他者に説明する活動を積極的に設定するなど、言語活動を充実させ、考えを表現する力を育み、基礎的な知識・技能の定着も図る。		
		評価指標	6月	目標値	2月
		問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。	47.3%	60%	%
		数学で学習した言葉を使って自分の考えを説明している。	58.1%	70%	%
		【評価】	成果と課題		
		○			

3年	【目指す授業】	基礎的・基本的学力の定着と誤答分析の充実			
		生徒の実態・課題	具体的な手だて		
		○授業で学んだ基礎知識をその場では使えるが、反復演習をしないため、身に付かない。 ○間違えた問題や、理解が不十分なまま正解した問題を、もう一度考え直そうとする生徒が少ない。	○反復演習や授業ごとに小テストを行い、計算技能を身に付ける。 ○タブレット PC を活用して、問題演習や振り返り等を行い、学習内容の定着を図る。 ○定期考査ごとに誤答分析や解き直しを行い、自らが取り組んだ問題に対して、もう一度取り組む習慣を付ける。		
		評価指標	6月	目標値	2月
		数学で学習した言葉を使って自分の考えを説明している。	54.5%	70%	%
		問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。	52.3%	70%	%
		【評価】	成果と課題		
		○			

令和5年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第二中学校（ S 組 ）

目指す授業		○既習内容を活用する活動を充実させ、学習内容を定着させる授業 ○学習内容に関する生活に即した知識を増やし、その知識の活用方法に具体的なイメージをもたせる授業	
教科	① 生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○拗音、促音、濁音の表記や助詞の使い方が定着していない生徒がいる。 ○漢字に苦手意識のある生徒が多く、定着していない。 ○意味を知らない語彙が多く、日常生活で使用する言葉の意味を理解できないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○短文の作成や語彙を表記する取組を通して、拗音、促音、濁音の正しい表記の仕方や助詞の適切な使い方を身に付けさせる。 ○日常的に使用する漢字の書き取り練習を繰り返し行い、漢字を使用する意識を育てる。また、漢字の課題を宿題や長期休業中の課題にすることで、知識を定着させる。 ○ことわざや慣用句などの言葉の学習を通して、語彙の知識を定着させる。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○視覚化された内容であれば理解できても、それを応用することや、計算を実生活の場面で活用することに課題がある。 ○計算問題については自信のある生徒が多いが、文章題などの理解が難しい生徒が多い。 ○小数、分数の計算など、小学校の学習内容に不安をもつ生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活の場面を想定した問題に取り組みせ、ロールプレイ形式を取り入れて学習させる。 ○かけ算表や電卓など、個の学習状況に応じて、活用する手だてを学ばせる。 ○タブレット PC を活用し、小数や分数の仕組みを視覚的に示したり、計算パズル等に取り組みせたりすることで、楽しんで学習させる。 ○個の学習状況に応じて段階的にプリントを用意し、基礎的な計算力を身に付けさせる。 	

令和5年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第二中学校（ E組 ）

<p>目指す授業</p>	<p>○基礎・基本を定着させる授業 ○主体的に学ぶ姿勢を育て、幅広く知識・技能を身に付ける意欲を引き出すとともに、思考・判断・表現する力を育てる授業</p>		
<p>教科</p>	<p>① 生徒の実態・課題</p>	<p>② 授業改善の取組</p>	<p>③ 取組結果</p>
<p>国語</p>	<p>○漢字の課題を通して漢字を書いて覚えようとする姿勢や習慣は定着しているが、覚えた漢字を学習や日常生活に生かす意識が高まっていない。 ○話すことや書くことにおいて表現しようとする意欲は高いが、スキルが身に付けていない。</p>	<p>○毎授業での漢字学習の取組に加え、単元ごとに漢字テストを実施し、覚えた漢字をアウトプットする回数を確保する。また、ワークシートや作文課題では、漢字を活用して書くよう意識付けを行う。 ○互いのスピーチや作文を評価しあうことにより、分かりやすい表現を考える視点を身に付けさせる。 ○スピーチ原稿や長い文章を書く取組では、推敲して何度でも書き直せるよう、タブレット PC を使用して文章を書かせる。</p>	
<p>数学</p>	<p>○計算問題については自信のある生徒が多いが、文章題などに不安のある生徒が多い。 ○計算方法については理解できても、複数の種類の問題を見て、正しい計算方法を選択することに課題がある。 ○学習内容に難しさを感じると、集中して取り組めないことがある。</p>	<p>○個の学習状況に応じて難易度の異なるプリントを段階的に用意し、繰り返し取り組ませることで、基礎的な計算力や応用力を身に付けさせる。 ○1種類の計算を続けて取り組むだけでなく、複数の計算を意図的に混ぜて取り組ませる。 ○基礎的な計算から段階的に学ばせ、スモールステップで達成感を感じさせながら学ばせる。</p>	